

新潟県須原地域の足尾帯ジュラ紀付加コンプレックスとその構造的累重関係

Jurassic accretionary complex of the Ashio Terrane in the Suhara region, Niigata Prefecture, central Japan

原 英俊[1]; 柏木 健司[2]

Hidetoshi Hara[1]; Kenji Kashiwagi[2]

[1] 産総研; [2] 産総研地球科学情報研究部門

[1] Inst. Geosci., GSJ, AIST

; [2] AIST, GSJ

新潟県須原地域の足尾帯ジュラ紀付加コンプレックスについて、岩相の特徴に基づき 3 つのコンプレックス（構造的上位より大白川・黒又川・上権現堂山コンプレックス）を区分した。識別された 3 つのコンプレックスについて、西南日本内帯の丹波-美濃帯ジュラ紀付加コンプレックスへの対比を行うとともに、足尾帯ジュラ紀付加コンプレックスにおける構造的累重関係の広域的な姿勢について議論する。

大白川コンプレックスは、主に緑色岩・砂岩の岩塊を伴う混在岩を主体とし、緑色岩・石灰岩・チャートの小規模岩体を伴うことで特徴づけられる。黒又川コンプレックスは、主に緑色岩及びチャートの中-大規模岩体と砂岩頁岩互層からなる。上権現堂山コンプレックスは、チャートの小-大規模岩体と混在岩からなり、一部に緑色岩の小規模岩体を伴う。これらのコンプレックスは、黒又川花崗岩の貫入によって、東西に二分されており、花崗岩の東側には大白川コンプレックスと黒又川コンプレックスが、西側には上権現堂山コンプレックスが分布する。各コンプレックスの形成年代は、大白川コンプレックスは前期ジュラ紀前半（Sinemurian 後期-Pliensbachian 前期）、黒又川コンプレックスは中期ジュラ紀中頃-後期ジュラ紀前半（Bathonian 後期-Oxfordian）、上権現堂山コンプレックスは中期ジュラ紀以降である。

岩相組合せの差異と各岩相の堆積年代によると、中江（2000）による区分では、大白川コンプレックスは 1 型コンプレックスに、黒又川コンプレックスは 2 型コンプレックスに、上権現堂山コンプレックスは 3 型コンプレックスに対比される。特に、前期ジュラ紀中頃に形成された大白川コンプレックスは、丹波-美濃-足尾帯ジュラ紀付加コンプレックスの中で、形成年代が古く構造的最上位のコンプレックスとして位置づけられる。

足尾帯に属するジュラ紀付加コンプレックスは、北部フォッサマグナ東縁部と棚倉構造線に挟まれた地域に分布する。そして東から北西に向けて、より形成年代の古い構造的上位のコンプレックスが分布することが指摘されている。しかし須原地域では、西から東に向かって黒又川コンプレックスの上位に大白川コンプレックスが累重する。これは、足尾帯ジュラ紀付加コンプレックスの大局的な累重関係の姿勢から外れる。この原因として、黒又川花崗岩体付近にアンチフォームの存在が挙げられる。